

授業科目	発達アセスメント演習					実務家教員担当科目	○				
単位	1	履修	選択	開講年次	3	開講時期	前期				
担当教員	水貝 洵子										
授業概要	<p>実務家教員として、医療や福祉領域において、乳幼児や児童生徒、成人を対象に知能検査や発達検査を実施してきた経験を有する。</p> <p>本演習では主に幼児期、児童期における発達アセスメントについて解説する。行動観察および臨床現場で用いられることの多い発達検査(新版K式発達検査)及び知能検査(ウェクスラー式知能検査、田中ビネー式知能検査)について講義や実習を行う。</p> <p>またアセスメントで得られた結果に基づいた発達相談の実際について解説する。</p>										
授業形態	演習					授業方法	ディスカッション グループワーク プレゼンテーション				
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	1. 行動観察や各種発達検査、知能検査の土台となる理論について説明することができる。 2. 検査を取り扱うための態度や姿勢を理解し説明することができる。										
理想的レベル	1. 行動観察や各種発達検査、知能検査の土台となる理論について正確に説明することができる。 2. 検査を取り扱うための意識や態度・姿勢を正しく理解し説明することができる。 3. 自らの臨床実践に対する認識を深め、どのような臨床実践を行うことが必要なのかについて、考え出すことができる。										
評価方法・評価割合											
評価方法	試験					評価割合(数値)	50%				備考
小テスト											
レポート						15%	授業にて提出を求める質問感想シートやワークシートを指す				
発表(口頭、プレゼンテーション)						15%					
レポート外の提出物											
その他						20%					
カリキュラムマップ(該当DP)・ナンバリング											
DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	WE31404J
学習課題(予習・復習)										1回の学習目安(時間)	
該当箇所の復習										1	
授業計画											
第1回	テーマ：オリエンテーション 乳幼児期、児童期における発達アセスメントの概要について解説を行う。										
第2回	テーマ：発達アセスメントに関する諸概念 発達アセスメントを学ぶにあたり関連のある概念(生物心理社会モデル、ICFによる障害理念など)について振り返りつつ、発達アセスメントとどのような関連があるかについて解説を行う。										

第3回	<p>テーマ：行動観察</p> <p>行動観察の定義、分類、行動関する際の視点などについて解説を行う。映像を観ながら実際に行動観察を行うなどの実習を予定している。</p>
第4回	<p>テーマ：発達検査1</p> <p>発達の原則について復習したのち、発達検査全般の解説を行う。その後、遠城寺式乳幼児分析的発達検査について解説、実習を行う。</p>
第5回	<p>テーマ：発達検査2</p> <p>新版K式発達検査を取り上げる。新版K式発達検査の成り立ちや検査項目、実施方法について紹介する。結果の解釈について解説する。</p>
第6回	<p>テーマ：事例検討1</p> <p>遠城寺式乳幼児分析的発達検査および新版K式発達検査によるアセスメントから支援へと展開した事例について紹介する。解説のみならず、事例に関する感想、考察についてディスカッションも行う。</p>
第7回	<p>テーマ：知能検査1</p> <p>田中ビネー知能検査Vを取り上げる。検査の成り立ちや実施方法、解釈の仕方について解説する。</p>
第8回	<p>テーマ：知能検査2</p> <p>ウェクスラー式知能検査について、その基本的な知能に関する考え方、検査の成り立ち、検査の実施方法について解説を行う。</p>
第9回	<p>テーマ：知能検査2</p> <p>ウェクスラー式知能検査について、学生が検査実施の実技を行う。実施者以外の学生は、検査実施の様子を観察し、課題の意図や実施時の留意点について考える。</p>
第10回	<p>テーマ：知能検査2</p> <p>ウェクスラー式知能検査について、学生が検査実施の実技を行う。実施者以外の学生は、検査実施の様子を観察し、課題の意図や実施時の留意点について考える。</p>
第11回	<p>テーマ：知能検査2</p> <p>ウェクスラー式知能検査について、学生が検査実施の実技を行う。実施者以外の学生は、検査実施の様子を観察し、課題の意図や実施時の留意点について考える。</p>
第12回	<p>テーマ：事例検討2</p> <p>ウェクスラー式知能検査によるアセスメントから支援へと展開した事例について紹介する。事例に関する感想、考察についてディスカッションも行う。</p>
第13回	<p>テーマ：事例検討3</p> <p>ウェクスラー式知能検査によるアセスメントから支援へと展開した事例について紹介する。事例に関する感想、考察についてディスカッションも行う。</p>
第14回	<p>テーマ：事例検討4</p> <p>ウェクスラー式知能検査によるアセスメントから支援へと展開した事例について紹介する。事例に関する感想、考察についてディスカッションも行う。</p>
第15回	<p>テーマ：まとめ</p> <p>これまでの学習内容を振り返りを行う。まとめとして、心理アセスメント、発達アセスメントに関する注意点についても解説する。</p>

テキスト	指定しない。
参考図書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介	<p>『公認心理士の基礎と実践 14ー心理的アセスメント』 野島一彦・繁柘算男（監修） 遠見書房</p> <p>『子どもの理解と支援のために 発達アセスメント』 本郷一夫（編） 有斐閣選書</p> <p>『新版 K 式発達検査 2001 実施手引書』 生澤雅夫・松下裕・中瀬惇編著 京都国際社会福祉センター</p> <p>『田中ビネー知能検査 V』 杉原一昭・杉原隆監修 田研出版</p> <p>『日本版 WISC-IV 知能検査法』 David Wechsler 著 日本版 WISC-IV 刊行委員会訳編著 日本文化科学社</p>
課題に対するフィードバックの方法	レポートのコメントや質問は適宜取り上げて、授業内で補足や返答をする。
学生へのメッセージ・コメント	<p>発達心理学 I、臨床心理学概論、カウンセリング論、障害者心理学を受講していることが望ましい。</p> <p>実際に検査課題の実施を体験してもらおう。技能を習得してもらい、授業内で実技の発表を求める。また、事例検討などを通じ支援の在り方について積極的に考え意見を表明する姿勢が求められる。</p>

